

特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr.309

September 2016

NPO 法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館 19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE

GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

神戸日独協会ロゴマークについて

神戸日独協会では、かねてより協会を象徴するロゴマークの作成を検討してきましたが、実行委員会にて検討を重ね、この度以下の2案を作成いたしました。どちらも兵庫県の「県の鳥」でありドイツの「国の鳥」でもある「コウノトリ」^注をモチーフに、大空に力強くそして優美に飛び立つシルエットをロゴとしてアレンジしました。コウノトリは繁栄や幸運の象徴です。「これからもドイツと神戸日独協会との交流が、大空へはばたくコウノトリのように、また繁栄がもたらされますように」との願いが込められています。

今回の会報にカラー版を同封しておりますので、お目通しいただき、ご意見等をいただくことができれば幸いです。皆様のご意見をお伺いして、来年年初の「神戸開港150周年」を記念して決定する予定です。

みなさまに長く愛され続けるロゴマークになりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

A 案



B 案



注 日本のコウノトリは鳥類学上コウノトリ目コウノトリ科に属し(英名 Oriental stork 東洋コウノトリ)、ヨーロッパのコウノトリ(stork、Storch)はこの亜種で日本でいうシュバシコウ(英名 White stork)である。形態もコウノトリは全長約1.15メートルと大型であり嘴が黒い褐色であるのに対して、シュバシコウは小形で嘴が赤い。このように日独の「コウノトリ」は分類学上も形態上も全く同じものではなく近似種のものである。しかしこれらは古くから日本でもドイツでも「幸運をもたらす鳥」として人々に親しまれてきました。

神戸日独協会は、兵庫県とドイツを代表する鳥としてふさわしいと考え、ロゴのシンボルとすることにしました。

神戸日独協会 ロゴマーク案

A案



B案



ドイツ語講座・ドイツ文化教室2016年度第Ⅲ期開講

10月11日(火)よりドイツ語講座・ドイツ文化教室の2016年度第Ⅲ期が開講します。
ドイツ語講座とドイツ文化教室の多くのクラスは前期からの継続クラスですが、途中からの受講は可能です。詳しくは、同封の案内チラシをご覧ください。多くの方の受講をお待ちしています。

柘田会長受勲記念祝賀会

7月号会報でもお知らせ致しましたが、6月30日神戸にて、柘田義一会長にドイツ政府よりドイツ連邦共和国功労十字勲章が、ドイツ連邦共和国ヨアヒム・ガウク大統領名代のインゴ・カールステン総領事から授与されました。この事は、神戸日独協会会員として、喜びに耐えられません。

神戸日独協会会長柘田義一先生の受勲を、会員の皆様及び関係の方々と共に是非お祝いを致したく、下記のとおり祝賀会を開催いたしますので、皆様のご参加をお願い申し上げます。

発起人	神戸日独協会最高顧問	北沢誠太郎
	神戸日独協会理事	河本英雄((株)ユーハイム社長)
	同	松田耕治((株)ドイツ商事社長)
	同	尾辺和也(シスメックス(株) 取締役常務執行役員)
	同	S・トゥルンマー(神戸大学特任教授)
	同	立花 均
	同	斎藤容子

記

日時：2016年10月15日(土) 18:00-20:00

(会場受付:17:30より)

場所：神戸倶楽部(Kobe Club) 神戸市中央区北野町4-15-1

(Tel:078-241-2588)

参加費：6,500円 着席パーティ形式(食事及び記念品代を含む)

お申し込みは、電話・FAX・メールにて、神戸日独協会事務局にお願いします。

また、参加費は、郵便振り込みまたは銀行振り込みにて、よろしくお願ひ致します。(三井住友銀行 神戸営業部 普通預金口座8004770)

申し込み締め切りは、2016年9月16日(金)です。

新企画

「ドイツワインの会」開催予告

神戸日独協会ではこの秋より、初心者向け「ドイツワイン会」(仮称)を予定しています。毎回テーマを決めて、数種類のドイツワインを試飲しながらワインに関する知識を楽しく身につけ、ドイツとその食文化への理解を一緒に深めてみませんか？

試してみましよう<Wharheit oder Lüge ?>

- ドイツワインといえば白ワインである (Whar/Lüge)
- 肉料理には赤ワインがぴったり (Whar/Lüge)
- 価格が高いワインは美味しい (Whar/Lüge)
- 等級が高いほど美味しい (Whar/Lüge)
- ワインの生産地域の気候は温暖である (Whar/Lüge)

答えはすべて「Lüge」。

一つでも間違えた方、この「ドイツワインの会」へのご参加をオススメいたします！

来年は神戸開港 150 周年、そして 4 年後は東京オリンピックです。ドイツをより深く知るために、ドイツワインを通じた友好親善文化交流のために、ドイツ好きをおもてなしするために、来日したドイツの方と楽しいひとときを過ごすために…みなさまどうぞ、ご参加ください。

第一回テーマ:「世界のワイン、ドイツのワイン」(予定)

場 所: 神戸日独協会 会議室

日 時: 10 月の会報、ホームページなどにてお知らせの予定

定 員: 20 名程度 (20 歳以上)

参加費: ¥2,000 前後 (ワインおよび資料代)

申込方法: 10 月の会報、ホームページなどにてお知らせの予定

今、世話人によって楽しいプログラムを計画中です。次回のご案内をお楽しみに。

「シュタムテイツシュ」

「世界遺産のライン溪谷中流上部を巡る」

日 時: 9月24日(土) 15時~17時

場 所: 神戸日独協会会議室

テーマ: 「世界遺産のライン溪谷中流上部を巡る」

今回は、多くの古城が点在し、ブドウ畑も見られる、2002年に世界遺産に登録されたライン渓谷中流上部に加え、この世界遺産の南北の起点近くにあるリュースハイムやコブレンツなどの町、更にはライン川を上り下りするのに使われている水門なども取り上げます。ライン川のクルージングを経験された方、古城を利用したホテルに泊まったことのある方、ライン川沿いの町や村を訪れたことのある方、それらに興味をお持ちの方、また、将来、ライン川沿いの町や村などに旅行を計画しておられる方等々、いろいろな方に参加いただき、お茶を飲みながらのひと時をテーマに沿って懇談していただければと思います。多数の方の参加をお待ちしています。

参加費： 一般 800円 会員 500円（ソフトドリンク、お茶菓子付き） 当日受付にお支払いください。

申し込み： 9月23日(金)までに事務所までメール・電話・ファックスでお申し込みください。

日独若者の「神戸再発見」

第 32 回 藍染体験と金魚すくい報告

GJG 担当理事 北村 美里

今回の再発見は、奈良日独協会の若手会員の方との合同企画でした。奈良の彼女とは2014年大使公邸の秋祭りで出会って以来、いつか一緒に企画ができたらという話をしていました。そして本年の7月3日、「神戸再発見」の外国人墓地訪問後に神戸日独協会での「日独若者の交流」についての懇談会を行いました。その時に今抱えている課題や、これからの交流の形についてのアイデアを一緒に話し合う中で、この機会に合同企画をしてはどうかという話になり、奈良の大和郡山での「藍染め・金魚すくい体験」が実現しました。お盆前の祝日に実施となったことから、どれくらい参加して下さる方がいるだろうかと不安も抱えておりましたが、予想を大幅に超えて、神戸・奈良両協会の若手を含む会員、留学生、一般の方約20名の方にご参加いただきました。

藍染めでは、体験の前に工房の方から原料や染め方、色が染まる化学的な仕組みを教えてくださいました。その後、まずは大判のハンカチにデザインを施しました。割り箸、輪ゴム、フィルムケース、軽石、洗濯ばさみといったアイテムを白抜きしたい場所に取り付けていきます。なかなか想像できない結果に思いをはせながらの試行錯誤の時間でした。デザインが決まったら、エプロン・手袋をつけて、薄い色の甕、濃い色の甕など、10以上ある甕を次々回りながらハンカチに色を染めては水で洗う作業を10回ほど繰り返します。この間に同じ甕・隣の甕になった人同士で自然と会話がはずみ、できあがった個性的で美しい作品を見せ合うのも楽しい時間でした。

藍染めの次は金魚すくいでしたが、予想を超えて多くの方に参加いただいたため、2つのグループに分かれ、金魚すくい体験と、藍染めの資料や金魚関連の工芸品のコレクションがある資料館の見学に分かれました。私は資料館の方に向かいました。ここでは自由に資料やコ

レクシオンを見学していただきましたが、詳しい説明も多く、街の歴史をより深く知ることができたのではないかと思います。また金魚すくいも大いに盛り上がったようでした。

この日はとても暑く、少し時間も残っていたため、少し歩いて、かき氷を食べに行きました。最近の奈良の名物の一つがかき氷です。軽やかな氷と優しい味のシロップを堪能して涼んだ後解散の運びとなりました。その後の懇親会にも多数の方がご参加くださり、さらに楽しい語らいの場となりました。

急ながら若手会員交流の試みとして立ち上げた合同企画でしたが、日独だけでなく神戸と奈良の良い交流の機会とすることができました。また神戸日独協会から参加してくださった方からは、神戸とは違う町並みを見るのも楽しかったとご感想をいただきました。参加者の方それぞれに新たな発見を持ち帰っていただけたのではないかと思います。

第 33 回 アロマジェルキャンドル作り/

33. Treffen: Gelkerze mit Aroma selbst machen

旧北野小学校の校舎を活用して生まれた「北野工房のまち」でアロマジェルキャンドル作りを体験します。

■日にち/Zeit: 2016年9月22日(木・祝)/ Donnerstag (Feiertag) 22. September

■集合/Treffen: 13:00 神戸日独協会 / JDG Kobe

■予定/Plan: 14:00-15:00 北野工房のまちの「リトルクラフト神戸」にてアロマジェルキャンドル作り

/ Kitano Kôbô no Machi "Little Craft Kobe": Gelkerze machen

体験後は、街の散策あるいはカフェでの交流の時間とする予定です(16:00頃解散)。

/ Danach spazieren wir zusammen in Kitano oder unterhalten wir uns miteinander im Cafe (Bis 16 Uhr).

■定員/Teilnehmerzahl: 20名 / bis 20 Personen

■費用 /Kosten: 実費自己負担(キャンドル作り1080円) Gelkerze: 1080 Yen

■申込/Anmeldung: 2016年9月20日(火)までに/Bis Dienstag 20. September 2016

Tel: 078-230-8150 E-mail: info@jdg-kobe.org

ホームページ「会員限定コンテンツ写真」

神戸日独協会ホームページに、イベント等にて撮影した写真画像を閲覧およびダウンロードできるページ(会員限定)を作成しました。かつては希望者に必要枚数を伺い写真用紙に印刷されたものを購入いただいておりますが、昨今の情報通信技術の発展、またスマートフォ

ンやタブレット端末の利用が一般的となった状況を鑑み、今後はデータにて、記録としての写真を会員のみならずと共有する運びとなりました。「ハンブルク桜の女王歓迎会(4月)」「ドイツビアフェスト2016(8月)」他、2016年度催しの賑わいを閲覧する事ができます。

神戸日独協会のデジタルアーカイブとして、また思い出の振り返りとして、どうぞお楽しみください。

<アクセス方法>

1. 下記の URL を開く※

<http://www.jdg-kobe.org/service/photo.html>

2. 「ユーザー名」および「パスワード」を入力する

ユーザー名 : jdgkobe パスワード : 1940



※スマートフォンやタブレット端末の場合は右記のQRコードを読み取ると、簡単に開くことができます。

(読み取りにはQRコードリーダーが必要です)

ドイツ文化サロン

「女性が支える国際交流」

第12回 『ピナと私 Pina und ich』

- ・講師：市田 京美(いちだ きょうみ)さん

1973年に渡欧。81年、ピナ・バウシュ率いるヴツパタル舞踊団「春の祭典」にゲスト出演したことをきっかけに82年～98年まで同舞踊団に所属。「ネルケン」をはじめ多数の作品に出演。現在はフランスを拠点に「トーマス デュシャトレ カンパニー」でダンス指導やリハーサルディレクターを務め、日本でも全国各地でダンスワークショップを行っている。

- ・日時：2016年10月13日(木)14:00～16:00

- ・会場：ユーハイム神戸元町本店ホール(3階)

- ・会費：会員および家族 1300円、非会員 1500円(ケーキと飲物代)

当日受付にてお支払いください。

- ・申込：10月12日(水)までに事務所へメール・電話・FAXでお申し込みください。

ドイツ語談話室

第153回ドイツ語談話室

日時：2016年8月20日(土) 14-16時

場所：神戸日独協会会議室

テーマ：夏の料理

今回の司会は井川伸子さんが担当し、皆さんが持ち寄ったお手製の肉団子(Frikadelle)や鶏肉のから揚げほかおつまみを配り、健康を祝してビールで乾杯をした。中にシチリア産のレモネードも持参され、ビールで割ったハンブルグ風の飲み物まで登場。司会者によると、日本人とドイツ人の一人当たり年間ビール消費量はほぼ同じとの事である。次に参加者より各々好みの夏の料理や食材が話された。以下その一部を紹介する。

- 夏はやはりざるそばが一番。天ざるが良い。
- 冷やしそうめん、焼きなすがあっさりしてよい。
- そうめん、錦糸たまご、蒸し鶏、焼きなすなどを添えたものが見た目も良い。
- 冷ややっこに、おろし生姜が夏の良い定番。
- 大根スライス、梅干し、茗荷、トマトに、エキストラバージンオリーブオイル、バルサミコ酢をかけた野菜サラダが美味しい。
- ひとりの参加者は、娘さんが作った夏の料理の写真を持参された。貝柱のオレンジサラダ、野菜のパスタ、焼き茄子のあんかけ、鯛の蒸し焼き木の芽ソース、とどれも涼しく美味しそう。
- 野菜や果物、ヨーグルトなどをミキサーにかけて作るスムージーと呼ばれる飲み物は、栄養満点で美味しく、夏にとても良い。
- お茶漬があっさりして、夏は一番。
- モッツアレラチーズ、トマト、アボガド、黒オリーブに、エキストラバージンオリーブとドレッシングの野菜サラダが夏の定番好物料理。
- もずく、しそ、ゴーヤ、といった食材も夏向き。
- 暑いときのかば焼きも良い。一人の参加者は、自家製のかば焼きの写真を持参された。

今後のドイツ語談話室の予定

第154回 9月17日(土) 14-16時 テーマ：英国のEU離脱

第155回 10月15日(土) 14-16時 テーマ：ボランティア活動

Deutsche Gesprächsrunde

Protokoll der 153. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag 20. August 2016, 14 bis 16 Uhr

Thema: Das Essen im Sommer

Dieses Mal hatte Frau Nobuko Ikawa die Gesprächsleitung. Zuerst wurde das mitgebrachte Essen, hausgemachte Frikadellen, gebratenes Hühnerfleisch usw. aufgeteilt und auf die Gesundheit der Teilnehmerinnen und Teilnehmer angestoßen. Ein Teilnehmer brachte Zitronenlimonade aus Sizilien. Damit wurde auch ein Hamburger Biercocktail gemischt. Laut Informationen der Gesprächsleiterin ist der durchschnittliche Konsum von Bier pro Kopf in Japan gleich wie in Deutschland.

Von den Teilnehmerinnen und Teilnehmern kamen folgende Wortmeldungen zum Thema „Essen im Sommer“:

- Für einen Teilnehmer ist „Zarusoba“ (kalt servierte Buchweizennudeln) das Beste im Sommer, besonders „Tenzaru“. Dabei werden frittiertes Gemüse und frittierte Schrimps (Tempura) zu den Nudeln gegessen.
- Ein anderer Teilnehmer mag im Sommer „Hiyashisomen“ (gekühlt servierte dünne Nudeln aus Weizen) mit gerösteten Auberginen (Yakinasu).
- Eine Teilnehmerin isst diese Nudeln gern mit Kinshitamago (in Form einer Crêpe gebacken und dann dünn geschnittenes Ei) sowie mit gedämpftem Hühnerfleisch, Auberginen oder anderen Beilagen. Dies sieht auch sehr farbig aus.
- Ein weiterer Teilnehmer mag im Sommer besonders gern gekühlten Tofu mit geriebenem Ingwer und Sojasoße.
- Eine andere Teilnehmerin isst gerne gemischten Salat mit fein geschnittenem Rettich, Dörrpflaumen, Mioga-Ingwer, Tomaten, Extravirgin Olivenöl und Balsamico Essig.
- Ein Teilnehmer brachte Fotos von Sommergerichten, wie seine Tochter sie zubereitet, z.B. Kammuscheln mit Orangensalat, Gemüsepasta, geschmorte Meerbrasse mit japanischer Pfeffersoße oder gebratene Aubergine mit Soße. Sie sehen alle sehr lecker aus.
- Eine Teilnehmerin trinkt gerne Smoothies aus Gemüse, Früchten und Jogurt etc.. Die sind gesund, lecker und ideal im Sommer.
- Ein anderer Teilnehmer findet „Ochazuke“ (Reis in grünem Tee) am besten im Sommer.
- Ein Teilnehmer mag gemischte Salate mit Mozzarella, Tomaten, Avocado, schwarzen Oliven, Extravirgin Olivenöl und Essig. Das ist sein Lieblingsgericht im Sommer.
- Eine Teilnehmerin isst im Sommer oft „Mozuku“ (eine Algensorte meist eingelegt in

Essig), Perilla und „Goya“ (eine bittere Kürbissorte).

-Ein Teilnehmer isst gerne gegrillten Aal (Kabayaki) im heißen Sommer. Er hat ein Foto von hausgemachtem Kabayaki gezeigt.

Nächste Treffen:

Samstag 17. September 2016 14 bis 16 Uhr Thema: Brexit (Englands Austritt aus der EU)

Samstag 15. Oktober 2016 14 bis 16 Uhr Thema: Freiwillige Aktivitäten

寄稿

Forschungsaufenthalt in Kobe vom 23.07.-29.07.2016

Florian Liedtke (Technische Universität Berlin)

Mein Name ist Florian Liedtke und ich studiere Architektur und Stadtforschung an der Technischen Universität Berlin. Vom 23. Juli bis 29. Juli 2016 absolvierte ich einen Forschungsaufenthalt in Kobe, um für meine Masterarbeit zu recherchieren.

Der Fokus meiner Masterarbeit liegt auf Nutzung städtischen Raumes für den Wiederaufbau vom Erdbeben 1995. Konkret untersuche ich dafür die Rolle von Parks und Grünanlagen als Evakuierungsort und für den Brandschutz, die Lage und Konstruktion von Notunterkünften, sowie die Realisierung der großen Wiederaufbauprojekte, wie z.B. um die Bahnhöfe Shinnagata oder Rokkomichi.

Schon seit 2012 beschäftige ich mich mit Wiederaufbauarbeiten in Japan, mit dem Fokus auf aktuelle Projekte in Tohoku und konnte bereits mehrere Studienreisen dorthin unternehmen. Besonders viel Wissen und Erfahrungen vor Ort konnte ich in einer Studienreise 2014 gewinnen, die von Frau Gesa Neuert und Herrn Prof. Takashi Hashimoto vom Verein Deutsch- Japanisches Synergieforum e.V. (DJSF) organisiert wurde. Durch die vielseitigen und fachlich detaillierten Ortsbegehungen in Städten der gesamten Küste in Tohoku, konnte ich viele Grundlagen der Katastrophenplanung in Japan gewinnen, die mir bei meiner Untersuchung von Kobe zu Gute kommen. Frau Neuert und Herr Hashimoto konnten mich demzufolge dafür begeistern fortan im Verein DJSF aktiv zu werden und mich für den fachlichen Austausch über Wiederaufbauarbeiten in Japan einzusetzen.

Eine große Hilfe bei meiner jetzigen Forschungsreise nach Kobe waren mir Herr und Frau Masuda von der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Kobe, die mir ihre

persönlichen Eindrücke von der Katastrophe schilderten, mich durch die Rokkomichi-Bahnhofsgegend führten und mir viele Berichte zur weiteren Recherche zur Verfügung stellten. Die Katastrophe von 1995 war für viele Menschen in Kobe ein einschneidendes Erlebnis. Aus erster Hand von Herrn Masuda und Frau Masuda zu erfahren, wie die Stadt direkt nach dem Erdbeben aussah und was dies für die Menschen bedeutete, berührte mich sehr tief. Es ist mir wichtig, bei meiner wissenschaftlichen Arbeit auch immer die Probleme der Menschen zu beachten.

Die Besichtigung der Rokkomichi-Bahnhofsgegend war für mich sehr interessant. Bereits in Deutschland hatte ich mich mit den Wiederaufbaumaßnahmen in Rokkomichi beschäftigt und Pläne des Projektes studiert. Vor Ort konnte ich dann die Höhe der Gebäude, Breite der Straßen und Größe der Parks selbst begutachten und für meine Arbeit fotografieren. Es war außerdem sehr interessant von Herrn Masuda zu erfahren, wie die Gegend vor dem Erdbeben aussah.

In der Bibliothek der Disaster Reduction and Human Renovation Institution konnte ich ebenfalls sehr viele Pläne für meine Forschung ansehen und für die spätere Auswertung kopieren. Von großer Bedeutung für mich waren dabei Pläne, die die Intensität des Schadens in ganz Kobe anzeigten, Orte und Größe von Notunterkünften markierten sowie Grundrisse von Parkanlagen und einzelnen Notunterkünften. Ich konnte ebenfalls Herrn Kobayashi, Leiter für städtebaulichen Forschung an der Disaster Reduction and Human Renovation Institution für ein Interview gewinnen. Durch Herrn Kobayashi konnte ich viele städtebauliche Details genauer verstehen, wie z.B. die Rolle der Inseln Harbour Island und Rokko Island für die Platzierung von Notunterkünften, aber auch die entscheidende Rolle von Machizukuri-Vereinigungen für den Wiederaufbau.

Der Forschungsaufenthalt in Kobe hat mir geholfen, die Problematik des Wiederaufbaus in Kobe tiefer zu verstehen und einen Eindruck des realen Bauzustandes sowie Verortungen von Wiederaufbauprojekten vor Ort zu erhalten. Diese Erfahrung ist von großem Wert für meine Arbeit und wird es mir ermöglichen fundierte Schlüsse über die effektive Nutzung städtischen Raumes in Kobe für den Wiederaufbau zu ziehen. Mein ausgesprochener Dank gilt deshalb Herrn Prof. Masuda und Frau Masuda, die mir die persönlichen Schicksale der Katastrophe näher brachten und mir das heutige, sehr lebendige Kobe zeigten, Herrn Kobayashi, für seine detaillierte Erklärung des Wiederaufbauprozesses und Bereitstellung von entsprechendem Material und schließlich Frau Gesa Neuert und Herrn Prof. Hashimoto für die Vermittlung an Herrn Masuda und für ihre Zusammenarbeit im Deutsch-Japanischen Synergie Forum.

神戸での研究滞在(2016年7月23日-7月29日)

リードケ・フローリアン(ベルリン工科大学)

私はリードケ・フローリアンです。ベルリン工科大学で建築と都市研究を勉強しています。私は修士論文のための調査を行うために、2016年7月23日から7月29日まで神戸で研究滞在をしました。

私の修士論文の焦点は、「1995年の阪神大震災からの復興のための都市空間の利用」にあります。そのために避難場所としてそして防火対策のための公園と緑地帯の役割を、仮設住宅の立地条件や構造を、そして例えば JR 新長田駅と JR 六甲道周辺の大規模な復興プロジェクトの実行について具体的に調査をしています。

既に2012年から私は東北での現在のプロジェクトに焦点をあてて日本での復興作業に携わっています。そしてこれまでも東北への数度の研究旅行を行うことができました。「Verein deutsch-Japanisches Synergieforum (DJSF)」のゲーザ・ノイエルト(Gesa・Neuert)さんと橋本孝教授が企画された2014年の研究旅行では、私は現地できちんと多くの知識と経験を得ることができました。東北の海岸部全ての都市で多面的かつ専門的に詳細な現地検分を行うことによって、私は日本での大災害に対する多くの計画の基盤を知ることができ、それは神戸での調査に役立ちました。その結果、ノイエルトさんと橋本教授は、私が今後も DJSF で研究に積極的に取り組めるようにと、日本での復興作業についての専門家の交換に私を指名してくださいました。

今回の神戸への研究旅行では、神戸日独協会の柘田教授夫妻が大いに支援してくださいました。ご夫妻は、あの災害についての個人的な印象を詳しく話してください、JR 六甲道駅地域を案内してください、今後の調査に利用できるための多くの情報を提供してくださいました。1995年の大災害は、神戸の多くの人たちにとって深刻な体験でした。地震直後のこの都市がどんな様子であったか、そしてそのことは人々にとってどんな意味を持っていたのかを柘田夫妻から直接に知ることができたことに、私は深い感銘を受けました。学術的研究を行う際に常に人々の問題にも留意することが私にとっては大切な事なのです。

JR 六甲道地域で現地視察を行ったことは私にとって非常に興味深いことでした。それまでも既にドイツで、私は六甲道での再復興対策に取り組みプロジェクトのいくつかの計画を研究していました。そして現地に出向き建造物の高さや道路の幅そして公園の大きさを自ら検分し、研究論文のために写真をとることができました。さらに、六甲道地域が地震前にはどんな様子であったのかについて柘田先生から教えていただいたことはとても興味深かったです。

人と防災未来センターの図書館でも同様に私の研究のために非常に多くの地域地図を入念に見ることができ、今後の利用のために複写することもできました。神戸市全体での被災の激しさを示している地図や仮設住宅の場所と規模が標示されている地図そして公園施設と個々の仮設住宅の見取りを示している地図は私にとって大きな意味をもつものでした。人と防災未来センターでの都市計画研究の責任者である小林さんにもインタビューすることができました。小林さんから、私は多くの都市計画のディテールをより詳しく理解することが出来ました。例えば仮設住宅を配置するためのハーバーランドと六甲アイランドの役割、そして復興に対する「まちづくり協会」の決定的な役割等を。

研究のための神戸滞在は私にとって、神戸の復興の問題点をより深く理解し、実際の建築状況と復興プロジェクトの割り振りの印象を現地でもつことに役立ちました。この経験は私の研究にとって大いに価値のあるものであり、復興のために神戸の都市空間の有効な利用について確かな結論を引き出してくれるでしょう。私に大災害による個人の運命に対して興味を深めさせていただき、そして現在の非常に活気ある神戸を私に示してくださった柘田教授夫妻に、復興プロセスの詳細な説明としかるべき関係資料の準備と提供をしてくださった小林さんに、最後に柘田先生に仲介をしてくださり独日協カフォーラムで共同研究をさせていただいたノイエルトさんと橋本教授に格別の感謝を申し上げます。

(柘田節子訳)

事務室からのお知らせ

会報発送ボランティア募集

会報の発送を手伝ってくださる方を募集しております。会報の次回発送予定日は10月13日(木)です。お手伝いいただける方は、事前に事務室へご連絡(TEL/FAX 078-230-8150)の上、12時半頃事務室にお越し下さい。

これからの神戸日独協会の催し

日時	催し	会場	申込〆切 など
9月17日(土) 14:00~	第154回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室(19階)	当日参加可
9月22日(木) 13:00~	日独若者の「神戸再発見」 第33回 アロマジェルキャンドル作り	神戸日独協会 北野工房のまち	9月20日(火)
9月24日(土) 14:00~	シュタムティッシュ	神戸日独協会 会議室(19階)	9月23日(金)
10月15日(土) 18:00~	柘田会長受勲記念祝賀会	神戸倶楽部	9月16日(金)